

2023年8月22日

お客さま本位の業務運営に関する取組状況および K P I 実績値の公表について

J Aグループは、食と農を基軸として地域に根ざした協同組合として、助け合いの精神のもとに、持続可能な農業と豊かで暮らしやすい地域社会の実現を理念として掲げています。

当組合では、組合員・地域社会に必要とされるJ Aを目指し、「地域と歩むJ A 北大阪」をコンセプトに金融・共済・購買等を提供し、あらゆるニーズにお応えしております。この理念のもと、「お客さま本位の業務運営に関する取組方針」を公表するとともに、組合員・利用者の皆さまの安定的な資産形成に貢献するための具体的な取組みを実践しており、今回その取組状況を公表いたします。

また、上記とあわせ「お客様本位の良質な金融商品・サービスを提供する金融事業者をお客さまが選ぶ上で比較することのできる統一的な指標」（「比較可能な共通K P I」）も同時に公表いたします。

北大阪農業協同組合

I.取組状況

1 お客さまへの最適な商品提供 【原則2本文および(注)、原則3(注) 原則6本文および(注2、3)】

- お客様に提供する金融商品は、特定の投信運用会社に偏ることなく、社会情勢や手数料の水準等も踏まえたうえで、お客様の多様なニーズにお応えできるものを選定します。なお、当組合は、金融商品の組成に携わっておりません。
- 金融商品の選定にあたっては、次の観点からお客様の色々な「投資に関する好み」に合った商品を揃えつつ、「選びやすさ」、「長期投資への適性」を考慮し、一定の商品数に絞った『セレクトファンド』により商品提供を行います。

<投資信託の取扱い商品ラインナップ(2023年3月末時点)>

カテゴリ	国内	海外
債券型	1 (前年度末：1)	8 (前年度末：8)
株式型	6 (前年度末：6)	7 (前年度末：7)
REIT型	2 (前年度末：2)	3 (前年度末：3)
バランス型	1 1 (前年度末：1 1)	

※ 現在、新規でお申込みいただけないファンドも含まれておりますが、公社債投信は含んでおりません。

<商品選定の考え方>

<セレクトファンド選定基準>

- ①長期投資
- ②手数料
- ③運用実績
- ④将来性
- ⑤運用体制

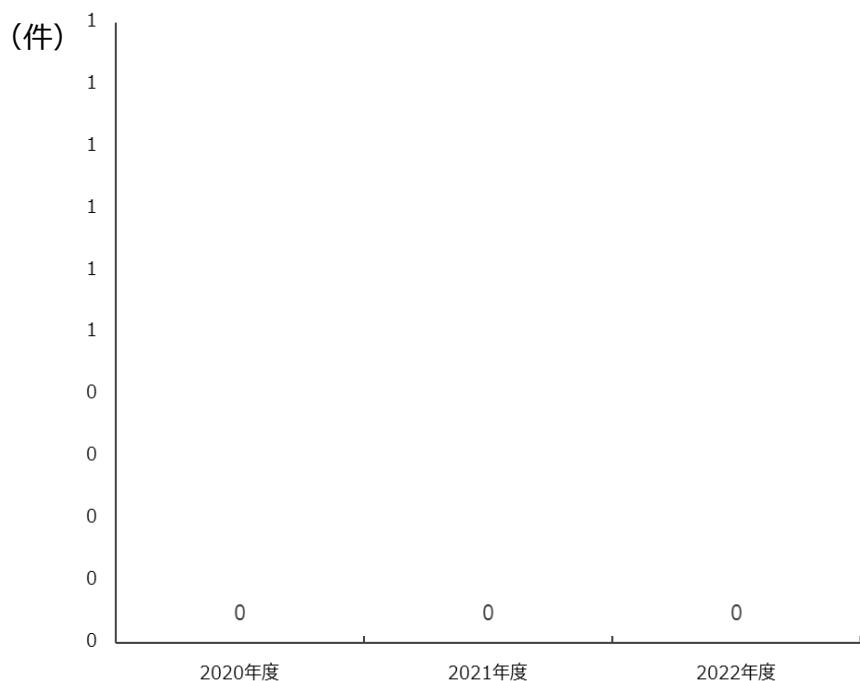
※商品選定の考え方：JAバンクHP
<https://www.jabank.org/sp/tameru/tousisintaku/select/>

I.取組状況

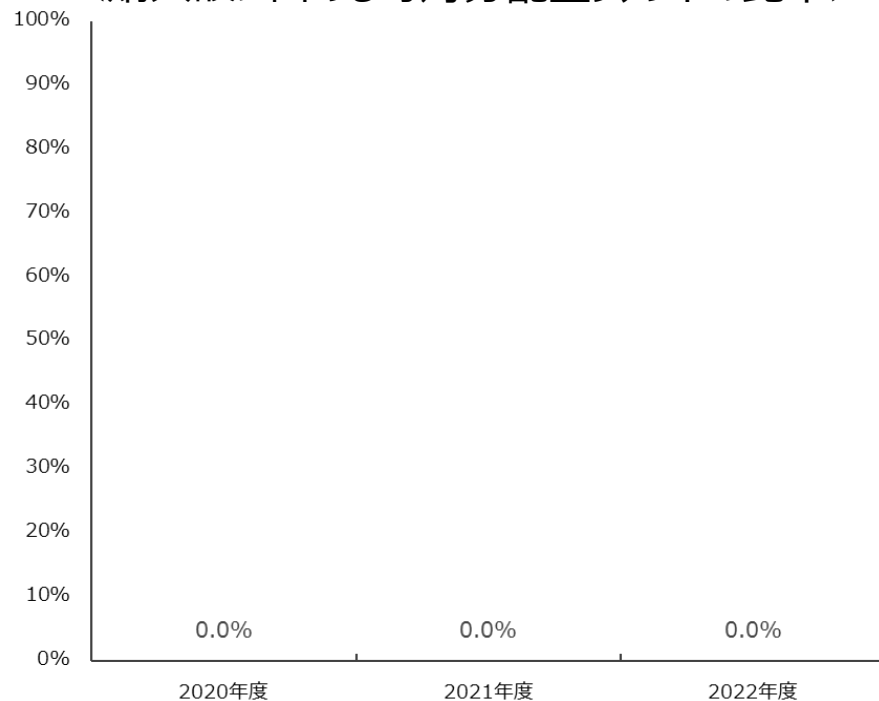
2 お客様本位のご提案と情報提供①【原則2本文および(注)、原則5本文および(注1～5)、原則6本文および(注1、2、4、5)】

- お客様への商品提案にあたっては、「スタイル診断シート」を活用し、金融知識・経験・財産、ニーズや目的に合わせて、お客様にふさわしい商品をご提案いたします。
- 2020年度、2021年度、2022年度については取り扱いはありません。

<投信つみたて契約件数の推移>



<購入額に占める毎月分配型ファンドの比率>



I .取組状況

2 お客様本位のご提案と情報提供②【原則4、原則5本文および（注1～5）、原則6本文および（注1、2、4、5）】

- お客様への商品提供にあたっては、「重要情報シート」により、当組合の提供する投資信託商品が長期運用を前提としたものであることなど、商品の性質を明確にしたうえで商品提案を実施しました。
- お客様の投資判断に資するよう、商品のリスク特性・手数料等の重要な事項について資料を提供のうえ分かりやすくご説明し、必要な情報を十分に提供しました。
- お客様が高齢の場合等においては、上席者の事前承認や同行対応による勧誘・ご提案、取引約定時における再確認等、お客様の特性に応じ適切な対応を実施しました。
- お客様との取引内容について定期的なモニタリングを実施し、お客様への適正な商品のご提案・販売を行っているか検証を実施しました。

I.取組状況

3 利益相反の適切な管理 【原則3本文および(注)】

- お客さまへの商品選定や情報提供にあたり、お客さまの利益を不当に害することがないように、「利益相反管理方針」に基づき適切に管理します。
- 金融商品の販売・推奨にあたっては、「重要情報シート」により、当組合の利益とお客さまの利益が反する可能性とその対処について明確化します。

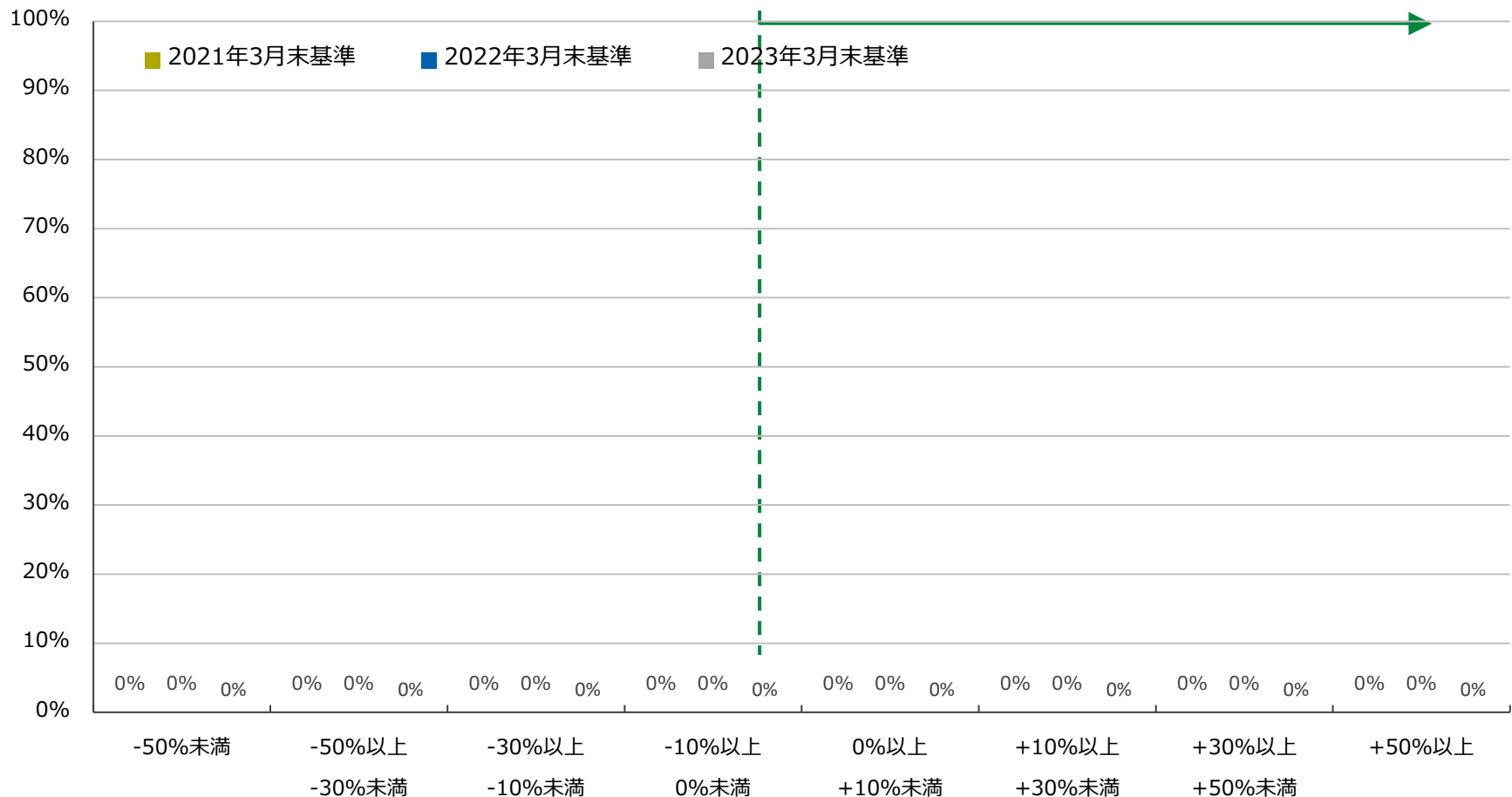
4 お客さま本位の業務運営を実現するための人材の育成と態勢の構築 【原則2本文および(注)、原則6(注5)】【原則7本文および(注)】

- お客さまの多様な資産運用ニーズに応じ、適切な提案を行うことができる高度な専門性を有し誠実・公正な業務を行うことができる人材を育成し、お客さま本位の業務運営を実現するための態勢を構築しています。
- お客さまへの適切な提案に資する高度な専門性を有する職員育成のため、外部資格取得を推奨しています。
- 業績の評価にあたっては、「手数料収入の貢献度」ではなく、顧客ニーズに沿った商品販売を行った結果としての「預かり資産残高」の他、「提案プロセス」を評価材料としています。

Ⅱ.比較可能な共通K P I

1 運用損益別顧客比率（投資信託）

- 2020年度、2021年度、2022年度については取り扱いはありません。

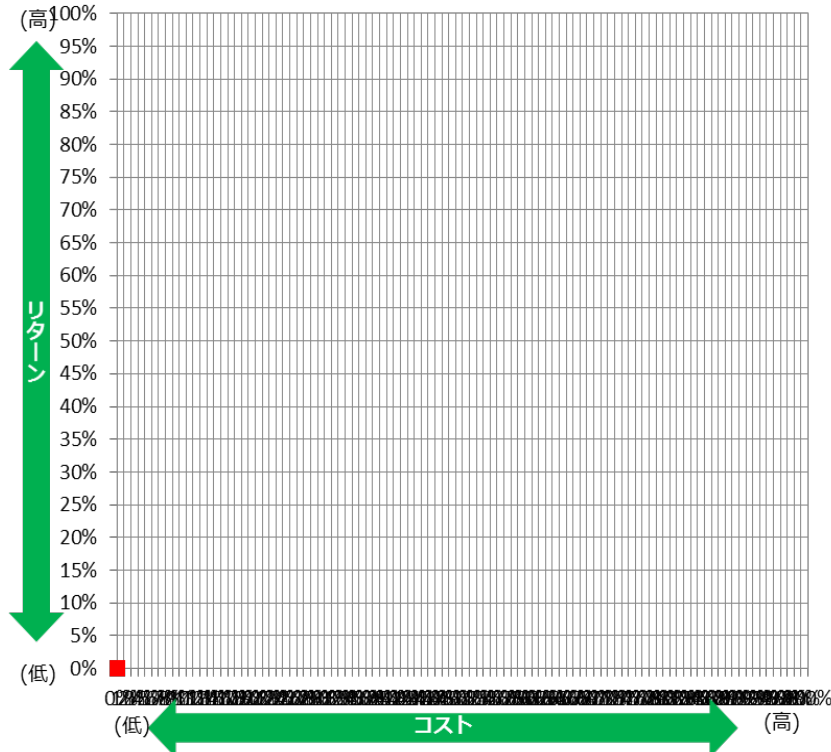


Ⅱ.比較可能な共通 K P I

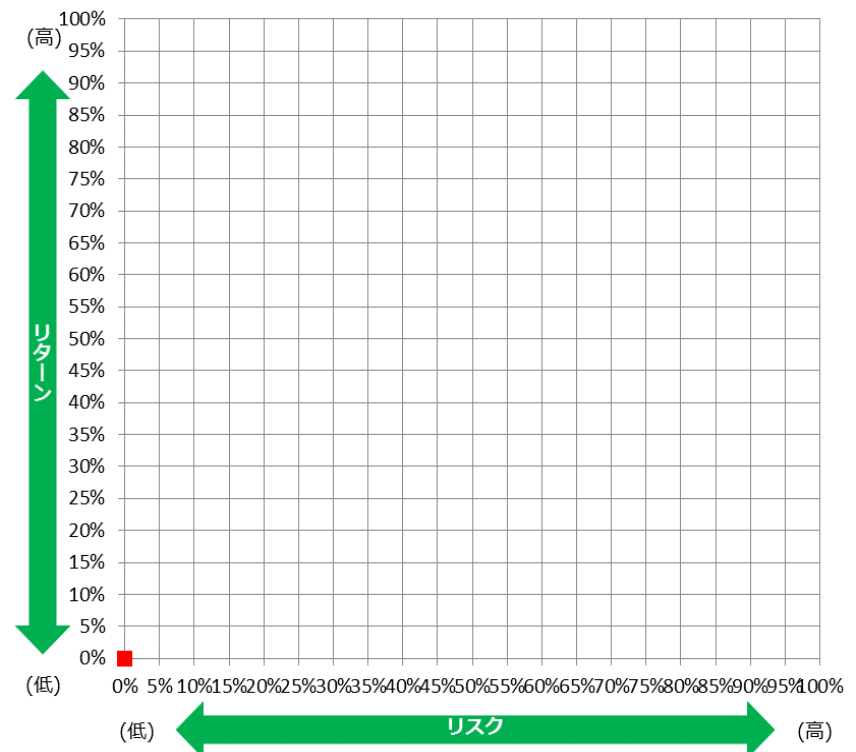
2 投資信託預り残高上位20銘柄のコスト・リターン/リスク・リターン (1/3) (2023年3月末)

- J Aバンクでは、取扱うファンドの運用実績をお客さま本位の業務運営の観点に基づきチェックし、運用実績が優良なファンドを選定しております。
- 2022年度については取り扱いはありません。

＜預り残高上位20銘柄のコスト・リターン＞



＜預り残高上位20銘柄のリスク・リターン＞

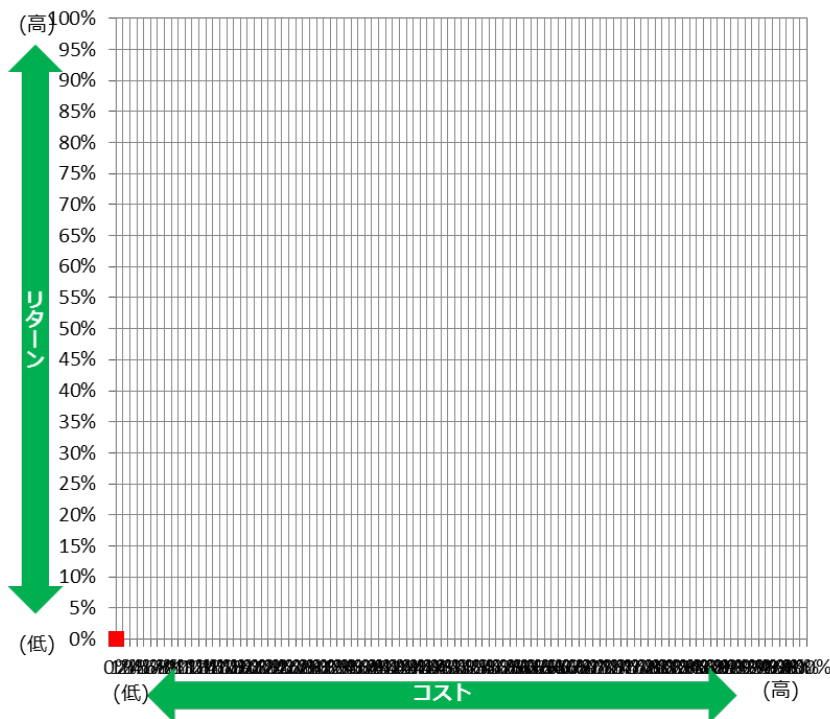


Ⅱ.比較可能な共通K P I

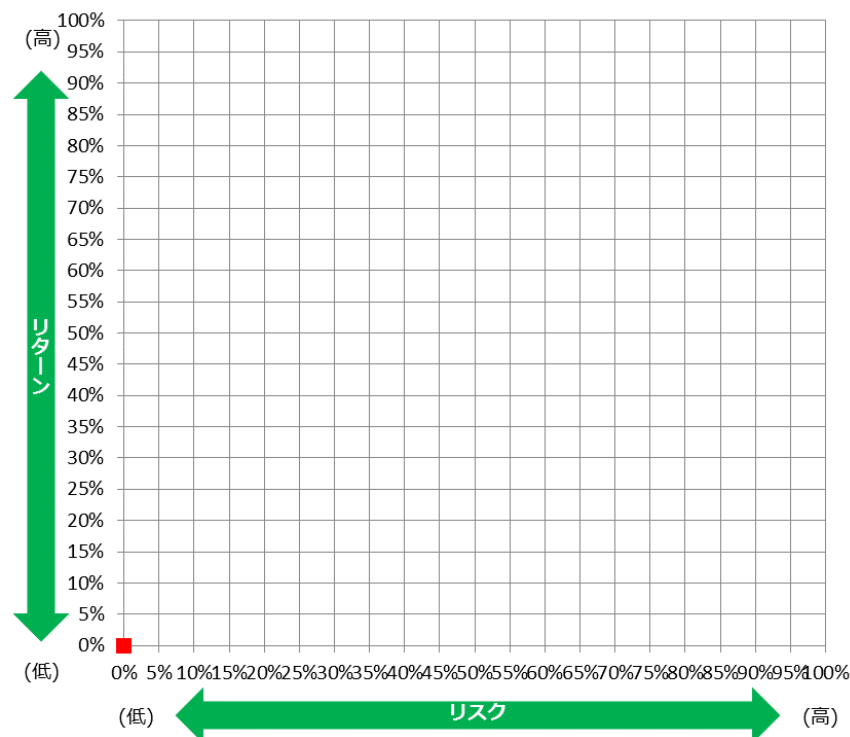
2 投資信託預り残高上位20銘柄のコスト・リターン/リスク・リターン (2/3) (2022年3月末)

- J Aバンクでは、取扱うファンドの運用実績をお客さま本位の業務運営の観点に基づきチェックし、運用実績が優良なファンドを選定しております。
- 2021年度については取り扱いはありません。

＜預り残高上位20銘柄のコスト・リターン＞



＜預り残高上位20銘柄のリスク・リターン＞

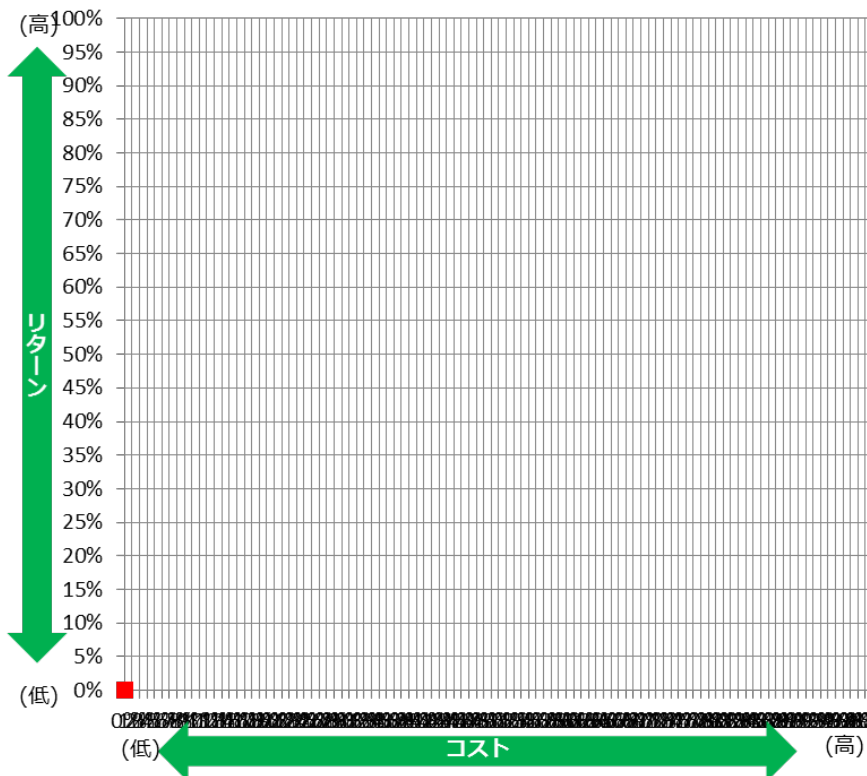


Ⅱ.比較可能な共通 K P I

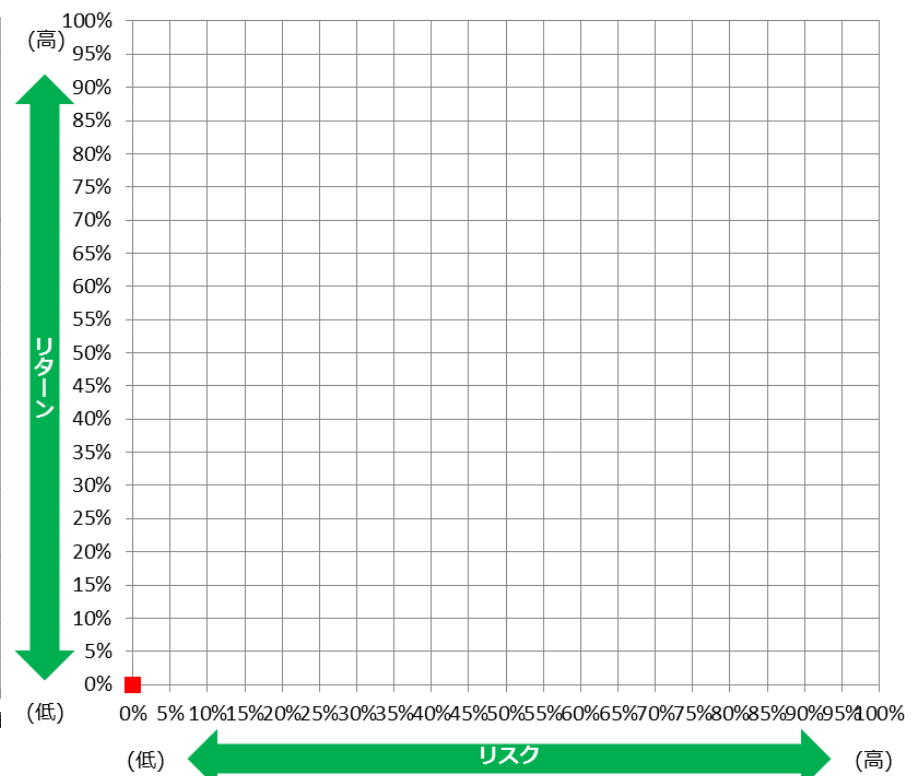
2 投資信託預り残高上位20銘柄のコスト・リターン/リスク・リターン (3/3) (2021年3月末)

- J Aバンクでは、取扱うファンドの運用実績をお客さま本位の業務運営の観点に基づきチェックし、運用実績が優良なファンドを選定しております。
- 2020年度については取り扱いはありません。

<預り残高上位20銘柄のコスト・リターン>



<預り残高上位20銘柄のリスク・リターン>



Ⅱ.比較可能な共通 K P I

2 投資信託預り残高上位20銘柄のコスト・リターン/リスク・リターン (1/3) (2023年3月末)

	ファンド名	運用会社	リターン (年率)	リスク (年率)	コスト 全体
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
	残高上位20ファンドの残高合計/残高加重平均値				

※ 2022年度については取り扱いはありません。

Ⅱ.比較可能な共通 K P I

2 投資信託預り残高上位20銘柄のコスト・リターン/リスク・リターン (2/3) (2022年3月末)

	ファンド名	運用会社	リターン (年率)	リスク (年率)	コスト 全体
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
	残高上位20ファンドの残高合計/残高加重平均値				

※ 2021年度については取り扱いはありません。

Ⅱ.比較可能な共通 K P I

2 投資信託預り残高上位20銘柄のコスト・リターン/リスク・リターン (3/3) (2021年3月末)

	ファンド名	運用会社	リターン (年率)	リスク (年率)	コスト 全体
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
	残高上位20ファンドの残高合計/残高加重平均値				

※ 2020年度については取り扱いはありません。